

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 10 学校名 警固屋小学校

a 学校教育目標	「未来に挑む自分を創る」 ～地域を愛し、自ら学ぶ心豊かで力強く未来を拓いていく「警固屋っ子」の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 小中一貫教育を通して、未来への展望を持ち「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。 <ビジョン>(将来の学校像) ・学習活動や行動が充実し、仲間と学ぶ楽しさがあふれる学園 ・子どもの夢や希望を生み出し、実現させる学園 ・地域・社会に貢献する実践的行動力のある学園
----------	---	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	【現状○成果●課題】 ○小中一貫教育を推進する組織体制を見直し、さらなる小中連携を築いてベクトルをそろえた教育活動を計画している。 ○児童生徒が共に学ぶ防災教育を推進している。(防災参観日、合同避難訓練等) ○児童生徒が地域の伝統を大切にしている教育活動を推進している。(創作合奏組曲・スーパー神楽) ○児童生徒の感性を育む教育活動に取り組み、成果が出始めている。(日記・詩・俳句の指導→警固屋学園詩句集「あすなろ」) ●基礎学力の定着及び主体的に学ぶ力を育成するために、校種間・教科間の枠を超えた共通の取組を構築する必要がある。 ●学力調査や公立高等学校入試を見据え、15歳の生徒に身に付けてほしい力の向上にむけて、小中学校が系統的に進める必要がある。 ●児童生徒の実態を踏まえ、生活習慣・学習習慣の改善に取り組む必要がある。 上記の現状より、次の5点を今年度の重点とする。 ①「未来に挑む自分を創る」(資質・能力を培う)ための主体的に学ぶ力を育成する。(学力向上・生き方) ②児童生徒が主体的に学ぶ力を育むための小中連携を強化する。(協働的な組織) ③健康で生きがいをもって生涯を生き抜く生活習慣の基盤づくりをする。(基本的生活習慣) ④教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整備する。(児童と向き合う時間の確保・業務改善) ⑤児童生徒保護者にとって、安心安全な警固屋学園をめざす。(個を大切にした支援の充実・学級経営・生徒指導)
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	知識・技能(知識及び技能) 思考力・判断力・表現力(思考力、判断力、表現力等) 主体性、協働性(学びに向かう力、人間性)
-------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値%	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	未来に貢献できる「自分を創る」資質・能力を育むため主体的な学びを推進する。 責	○基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力を培う。	スキルタイムとチャレンジタイムを組織的に行う。	全学年が、国算の単元末テストの平均をそれぞれ80%以上にする。	80%						
自分の言葉で話し、分かりやすく伝え、集団でよりよく課題を解決する児童を育てる。			月一冊以上、本を読む児童を100%にする。	100%							
			テーマに沿った自分の思いを表現できる児童	80%							
		○「考える授業づくり」を通して、主体的で対話的で深い学びをする児童生徒の育成を図る。	学年の発達段階に応じた家庭学習の仕方を身に付けさせる。 警固屋学園授業モデルを定着させ、ふり返り(Kチャート)で授業改善を図る。	低学年…宿題提出率 中学年…復習実施率 高学年…予復実施率 警固屋学園授業モデルの定着。(めあて、まとめ、ふりかえり)	上半期 70% 下半期 80% 90%						
**	だれもが安心・安全な環境で学べる学校風土を醸成する。 責	○地域の課題を考え、地域に貢献する児童生徒を育成する。	防災教育の充実(避難訓練、教科等の指導)	抜き打ち避難訓練で、自他の命を守り安全に避難できる児童の割合を90%以上にする。(児童アンケート)	90%						
				学期に1回以上防災教育・安全教育を実施する。	100%						
		○いじめを許さず、互いに認め合うことができる集団をつくる。	支持的風土のある学級経営を行う。	ふり返りシートで、「ありがとう」「ごめんなさい」が言える児童の割合を90%にする。	90%						
		○社会的スキル及び生活習慣の習得	基本的生活習慣を確立するための生活強化週間の設定	自分から進んで挨拶する児童の割合90%以上 就寝時刻が守れる児童の割合65%以上にする。(生活アンケート)	90% 65%						
*	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備 責	○在校等時間の縮減	退校時間の設定	時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合	90%						
		○児童生徒と向き合う時間の確保	各分掌で業務改善を行い、全職員が意識して取り組む。	年間2つ以上業務改善を行う。(上半期1つ以上、下半期1つ以上)	100%						

【k: 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60